



北海道地域福祉学会ニュース No.64

発行日：2023年2月14日：北海道地域福祉学会広報委員会（委員長 忍 正人）

2022年度第2回定例研究会の開催

2023年3月14日（火）、北海道地域福祉学会第2回定例研究会をオンライン（Zoom実施）にて開催いたします。研究会では、①多様な専門職の連携・協働につながる専門職理解（話題提供者：高橋銀司会員・一般社団法人福祉システム北海道代表）、②地域資源間の連携・協働の実践（話題提供者：藤江紀彦理事・社会福祉法人登別市社会福祉協議会 常務理事・事務局長）、③多様なセクター間の連携・協働を生み出す手法（話題提供者：篠原辰二理事・一般社団法人 Wellbe Design 理事長）を講師に、分科会形式にて開催いたします。詳しいスケジュール等は別途お送りしております開催要項、並びに学会ホームページをご参考下さい。参加申し込み締め切りは3月4日（金）となっております。前回に引き続き、オンライン決済（コンビニ払いの手数料は参加者負担）が可能となっております。

2022年度全道研究大会の開催（報告）

2022年度全道研究大会は、2022年11月20日（日）ハイブリット方式（オンラインと会場両方で実施）で北海道内外の社会福祉協議会や地域包括支援センターの職員の方々を含め48名の参加がありました。

＜自由研究発表・実践報告＞

自由研究発表・実践報告では、自由研究2本・実践研究3本の発表が行われた。自由研究発表では「農福祉連携事業精における中間支援組織の役割に関する事例研究」（大原昌明氏、畠山明子氏、杉岡直人氏）、

「生活困窮者対策における抵抗とステigmaについて」（松岡是伸氏）が発表された。

実践活動発表では、「福祉システム北海道実践活動報告」（高橋銀司氏）、「マルシェで町を元気に！－企業と法人、地元の店舗が連携しそれぞれの思いが合致した事例」（高橋正人氏）、「道内過疎地域自治体病院のMSWがおこなう外来ソーシャルワークに関する実践報告－外来患者アセスメントシートの作成・運用について－」（小出直氏）がそれぞれ研究・実践成果報告と質疑応答を行った。

＜基調講演＞

午後からは、東京都立大学人文社会学部准教授の室田信一氏が『ソーシャルエンジニアリングに向けた連携・協同』のタイトルで基調講演をおこなった。

室田氏の講演では、冒頭に「社会問題は広範に及ぶもので、またその根は深いものです。変化を促進しようとすること、それも人々の生活を向上させる方法で変化を促進することは、ソーシャルワーカーの実践の基礎であり、それゆえソーシャルワーカーはエンジニアージェントと呼ばれるのです。」（An Introduction to the Profession of Social Work 6th Edition 2018 pp28）の紹介があり、エンジニアージェントとしてのソーシャルワークの重要性とそのことが地域福祉実践とコミュニティ・オーガナイジング（顔が見える関係性に基づき、そのコミュニティに関わる人々がパワーを蓄積し、求める変化を達成するために共同して行動を起こすこと：室田 2017）につながっていくとした。また、コミュニティにおけるリーダーシップを「コミュニティがリーダーシップのビジョンに従うように影響力を及ぼすこと」と「コミュニティが自分たちの問題に取り組むように影響力を及ぼすこと」という二つの考え方（Heifetz=1996:20）を紹介し、そこから見たリー

ダーシップの段階、状況について解説があり、リーダーシップのある方が住民同士のパワー関係に関係しており、結果コミュニティに影響を及ぼしているとのことであった。次にチェンジに向けた連携・協働について、今まで話してきた内容を整理する形で「資源+戦略=パワー→変化」の一例として、資源（技術、手、農地）+戦略（地域づくりの方策）=パワー（活動する住民）→変化（過疎ではない、持続可能な地域）についての説明があり、その後、その事例に基づいて地域福祉実践の時系列の流れ、ゴールを設定することで、コミュニティが変化をしていく、ロジックが形成されるとのことであった。最後に、チェンジのための物語として、3つの図式をとりあげ、ソーシャルチェンジに向けた連携・共同のプロセスと結果についてお話をされて講演を終えた。

＜シンポジウム＞

テーマ『地域福祉実践における多様な連携・協働の現状』に基づき4名のシンポジスト（津別町地域包括支援センターチーフ・保健師 丸尾美佐氏；鷹栖町社会福祉協議会事務局長 梅澤美幸氏；株式会社ホクノヘルスケア・ウェルフェア室 室長 小熊祐介氏；江別市教育委員会 学校教育支援室教育支援課 SSW 栗田郁子氏による報告と室田氏をコメントターとして行われた。

報告内容として、丸尾氏は、「地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業における連携・協働～自分らしい暮らしを人生の最後まで～」として、津別町地域支援事業（総合事業、包括支援事業、任意事業等）は地域包括ケアに繋がり、それは住み慣れたつべつで最後まで『チームつべつ』で支える体制の構築に向けて動いていると報告があった。梅澤氏は、「重層的支援体制整備事業における参加支援を中心とした連携・協働」として、生活福祉相談センターによるワンストップ相談体制から個別支援を通して地域課題の解決、解決方法の柱として、循環型参加支援、居場所づくり、就労を核とした参加支援の方法を通しての地域づくりについて報告があった。小熊氏は「地域密着型の企業が行うホクノ健康ステーションにおける連携・協働」として、生活活動線上に「通いの場」となる拠点を作った経過と住民が集まることで生まれる、医療機関、介護事業のみならず様々な一般企

業、個人の方（例ヨガ講師）とのWINWINの関係構築からの地域づくりについて報告があった。栗田氏は、「子どもを取り巻く環境におけるSSWの連携協働～地域での連携事例を通して～」として、個別支援の事例から関係機関がそれぞれ持っている役割を確認し、理解し合うことに加えて、お互いの機能を重ね合い、それぞれが歩み寄った対応をする「のりしろ型」の支援の必要性について話され、さらにはSSWの対応実績と関係の蓄積が地域力の向上につながるとの報告があった。

事務局からの連絡事項

□会員状況（2023年2月1日現在）

現会員数：96名、2団体

□業務委託や講師等の派遣調整を行います

本学会では、学会役員及び会員の研究活動を社会還元するため、各種の業務委託や講師派遣等を実施しています。事務局において調整やご相談に応じておりますので、各方面への周知協力並びに事業へのご協力をお願いいたします。

□学年費の納入をお願いします

学会規約に基づき会費は年額5,000円、会費を2年以上滞納した会員は理事会にて退会したとみなすことができると定められておりますが、より多くの会員の皆様と共に北海道の地域福祉研究を推進するため、会費の納入にご協力をお願いいたします。

□会員情報の変更をご連絡ください

勤務・所属先等の会員情報登録に変更があった場合は、事務局にご連絡をお願いいたします。会員情報の変更用紙は学会HPよりダウンロードが可能です。

□事務局（事務局員：篠原・佐藤・畠山）

〒004-0022

札幌市厚別区厚別南2丁目7-28

URL

一般社団法人 Wellbe Design 内

T E L : 011-801-7450

F A X : 011-801-7451

Eメール: info@hacd.jp

URL: <https://hacd.jp>

